

『和顔愛語のぬくもり―日々の暮らしを調える仏道―』

■「和顔愛語、先意承問（わげんあいご、せんいじょうもん）」

（出典：『無量寿経』より）

- ・和顔（わげん）：和らいた穏やかなお顔。相手を安心させる優しい表情のこと。
- ・愛語（あいご）：相手を慈しむ、温かい思いやりの言葉のこと。
- ・先意承問（せんいじょうもん）：相手の心に先回りして、その思いや痛みに寄り添い、耳を傾けること。

■宗務所で実感した「和顔愛語」のちから

私が勤める宗務所が新体制で始まった当初、不慣れな仕事に所員皆が不安を抱えていました。その時、私たちを救ってくださったのが、所長のいつも変わらない「穏やかな笑顔（和顔）」と「温かい言葉（愛語）」でした。

一人の和顔愛語が、職場の皆の心を和ませ、助け合い、笑顔で苦勞を乗り越える大きな原動力となったのです。

仏道とは、座禅やお経を読むことだけではありません。日々の仕事や暮らしの中で、目の前の人はどう接するかが、尊い修行の場なのです。

■自利利他（じりりた）　　自他を温める灯火

「相手のため」と思って発した優しい言葉や笑顔は、決して相手だけのものではありません。

仏教には「自利利他」という言葉があります。他者を思いやり、トゲのない心で関わるその姿勢は、巡り巡って、自分自身の心を一番救い、豊かにしてくれるのです。

■まとめ　　明日からの実践

ふと、自分が険しい顔をしていることに気づいたら、それにハツとして、ふっと柔らかい表情に戻してみましよう。その「気づき」こそが尊い仏道です。

ご家族に、ご近所の方に、そして何より、日々頑張っているご自分自身に対して、「和顔」と「愛語」の温もりを向けてあげてください。

令和八年十月十五日

加茂法話会

田上町 安龍寺 齋藤隆光